

令和 2 年度 第 1 回

逗子市総合教育会議

令和 2 年 1 0 月 2 9 日

逗 子 市

会 議 録

令和2年10月29日令和2年度第1回逗子市総合教育会議を逗子市役所5階第4会議室に招集した。

◎ 出席者

逗 子 市 長	桐ヶ谷 覚
逗 子 市 教 育 長	大河内 誠
逗 子 市 教 育 委 員 会 教 育 長 職 務 代 理 者	村 上 朝 鼓
逗子市教育委員会委員	星 山 麻 木
逗子市教育委員会委員	若 林 順 子
逗子市教育委員会委員	高 橋 康

事務局

副 市 長	柏 村 淳
経 営 企 画 部 長	福 井 昌 雄
市 民 協 働 部 長	岩 佐 正 朗
市 民 協 働 部 参 事 (文化スポーツ担当) 文化スポーツ課長事務取扱	阿万野 充 代
教 育 部 長	村 松 隆
教 育 部 次 長 教育総務課長事務取扱	佐 藤 多佳子
教 育 部 次 長 (子育て担当) 保 育 課 長 事 務 取 扱	杉 山 正 彦
社 会 教 育 課 主 幹	佐 藤 仁 彦
図 書 館 長	安 田 清 高
図 書 館 担 当 課 長	塚 本 志 穂
学 校 教 育 課 長	杵 山 英 延
学 校 教 育 課 担 当 課 長	内 田 源一郎

子 育 て 支 援 課 長 村 上 晴 美

療育教育総合センター長 藤 井 寿 成

こども発達支援センター長事務取扱

療育教育総合センター主幹 奥 村 文 隆

教育研究相談センター所長

教 育 総 務 課 係 長 須 田 純 子

◎ 開会時刻 午後 3 時 3 0 分

◎ 閉会時刻 午後 5 時 0 0 分

1. 開 会

○事務局（佐藤次長）

それでは、定刻となりました。ただいまから、令和2年度第1回逗子市総合教育会議を開会いたします。

傍聴の皆様をお願いいたします。傍聴に際しましては、入口に掲示されております注意事項をお守りくださるようお願いいたします。なお、報道関係者以外の録音、写真撮影につきましては、許可しておりませんので御了承ください。

また、会議の決定により、非公開にすべき事項と思われる案件が出されたときには御退場いただく場合がございますので、御了承いただきますようお願いいたします。

2. 市長挨拶

○事務局（佐藤次長）

それでは、初めに桐ヶ谷市長から御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○桐ヶ谷市長

どうも、皆さん、こんにちは。日頃は本市教育行政に大変に御尽力をいただいておりますことを改めて御礼を申し上げます。

今日は来年度の予算編成ということでありまして、令和3年度を中心に皆様と協議のほうを進めさせていただきたいと考えているところであります。

今、逗子の状況をお聞きいたしますと、このコロナにより在宅勤務というようなことになってきた辺りからですね、逗子市が大変に注目をされ始めました。実際に土地取引等も大変に活発に今、行われているようでありまして、市の様々データによりましても、もちろん人口増まではいくには非常にハードルは高いわけですが、それは出生と死亡の自然増減、この減のほうはどうしても一定数がございすけれども、転入・転出の中でいきますと、転入増になっております。逗子市の幼稚園の園長先生からもお聞きしたところによると、これまでこんな問い合わせがあることは経験がないというぐらい、大変なお問い合わせがきている。それはですね、やっぱり若年者の転入が非常に多いということです。こちらに転入を考えられる方というのは、コロナによって在宅で仕事をし始めた。そうするとやっぱり、住む住まいの環境というのが大変に重要だということから、移住を御検討されているというふうに考えます。もしこれが御高齢の方々が終の住処というのであれば、やれ高齢者施設はどうなっているのかとか、介護はどうなっているのかと、そういう質問になろうと思うのですけれど

も、この幼稚園にしる学校にしる、大変なそういう要求が今、出ているのが現状というところでありまして、今、庁内におきましてはプロジェクトチームをスタートしております。これはいかに待機児童等に対策、手が打てるのかというところを事前にとにかく準備していく必要があるだろうと考えています。それには予算というものも絡んでまいりますので、副市長をトップにしまして、企画のほうも一緒にそこに入り、そして関係所管が知恵を出しているというところで今、進めている最中であります。

また、G I G Aスクールの構想等で、今行っているところはですね、私は何よりも工事業者に恐らく集中するであろうと想定しました。後手配になりますと、発注をかけても業者が見つからないということもあろうと思いましたので、いち早く業者手配のほうを動いてもらいまして、この準備が今、進んでいる最中であります。ただ、今年は夏休みが短かったせいで、土・日の主に工事となってきますので、1月いっぱいまでかかるであろうと言われております。ハードにおける機材のほうも手配が済んでおりますので、1月いっぱいをもって準備は整うと。その間、学校の先生等におきましては、そのG I G Aスクール向けの準備を重ねていただいて、1月末、準備が整い次第、それがスタートするということで今、準備をしているところであります。

また、P T Aの皆さんのほうから、様々な要望も頂戴しました。久木小学校、それから沼間小学校のほうでですね、室内天井モルタルの崩落、こういう危険な状況も出てきましたので、大変、保護者の皆様も不安に感じておられます。行政としましては、建て替えはできませんので、とにかく安全を図り、老朽化対策をしっかりと行っていく。これは、もう一つは、災害のときにそれぞれの施設が災害避難所等にも適用になりますから、そういう意味でも安全は担保すべきということで今、準備をしているところであります。

また次にですね、中学校給食の問題が、長年議会の中でも取り上げられ、食缶方式、温かい中学校給食を実現してくれと、こういうことで要望が長年出てきております。私はボックスランチに至った経緯も聞きましたし、それから隔週、私自身も中学校給食を食べさせてもらっていますけれども、味そのものは決して劣るものではないと思います。ただ、冷たいというのがですね、これはもう弁当の性格上やむを得ないことで、そこが不評の一つでもありますけれども、何とか中学校給食、温かいものというのがありました。先般、先週21日の水曜日に愛川町に視察に行かせてもらいました。そこは親子方式、要は小学校で作って中学校に提供する、よく議員の方々からもこれを言われていました。じゃあどうやって小学校で中学校の分の準備ができるのか。こう不思議に思っておりましたが、愛川町に関しては平

成元年の児童・生徒数が今はもう既に半減しています。ですので、小学校において調理能力は、中学校の分も入れても、まだ十分間に合う。そういう環境にあったということで、この親子方式が成立したという内容でした。

あと1つは、よくエレベーターをつけないと、それはもう準備が大変と。このエレベーターを古い校舎に設置ということになりますと、大変なコストと無理がかぶってきます。愛川中学校を見させてもらいましたら、生徒が3階であれどこであれ、運んでやってました。非常に、今この入れ物自体も大変にすぐれた容器になっていまして、2時間たっても4度しか下がらない。実際食べさせていただきましたけども、蓋を開けるとドーンと湯気が立つぐらいですね、非常に温かい状態で提供いただきました。

結論は、逗子として食缶なのか弁当なのかという、この議論はもう終止符を打ち、食缶で進めるという方針を決めました。エレベーターは作らない。それで、親子方式なのか外注なのか、これは議論の余地ありで、逗子における現状に即したもので検討する。1つは、キャパが愛川町のように小学校のキャパがまだ十分あるというのは、これも1つですけれども、もう一つの課題は、愛川町はもう既に調理の委託が済んでおりました。朝6時から調理がスタートする学校もあると言っていましたけれども、これが直営方式ですと、かなり難しい問題に直面する。様々な観点を検討した上で、直営、親子方式なのか外部委託なのかというのは別問題としまして、この食缶でエレベーター設置せずすると、開始をするという方向で進めていきたいと考えております。

課題はどこにあるかと考えますと、学校現場において、授業のカリキュラムをどう延長しないで、そのカリキュラムの中に収められるか。愛川町では、そこは朝の読書の時間をお昼に持ってくるとか、給食待ちの生徒さんは、そこで朝の分の時間を取り戻すというような工夫もされた中で、5分間の延長でそれが今、実施している。私はそこにもう決めたというところの一つはですね、生徒の顔、食べてる顔がものすごく晴れやか。それと、全部終わった食事の残りですね、これを見させてもらったら、予備食も含めてこれしかないですかというぐらい完食、ほとんど皆さんが食べ残しせずにやっている。やっぱりそれが本来、食育の観点で一番大事と考えているところですし、今後所管のほうに、食缶でいくということに対しての残りの様々な課題をPTAの皆様、そして学校の先生、そして議員の皆さんとどう議論していくかということだというふうに考えております。

今日はこういった会議を通しまして、連携を深めて、何とか逗子を本当に教育の上でも先頭を走れるまちに持っていきたいと。私はこうやって外から注目されている逗子の今のまち

という中に、教育が成り立ってないということになった場合は、恐らく移住を考える人も、逗子から魅力として消え失せていくのだらうと思います。ですので、私は女性が働ける社会構造をつくるのだということと同時に、やはり両輪であるのは教育がしっかりと、他市に比べても充実しているということが最大の呼び物になってくる。それに向けてしっかりとかじ取りをしていきたいと考えているところであります。どうか今日はひとつよろしく願いをいたします。

3. 教育長挨拶

○事務局（佐藤次長）

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、大河内教育長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○大河内教育長

皆さん、こんにちは。本日は総合教育会議を開催いただき、ありがとうございます。また、コロナの影響で市内小・中学校が一斉休校の折にはですね、県下で逗子独自の早い学校復帰ということで、5月15日から分散登校、そして6月15日の正常登校に向けて御助言をいただき、またその後も今日まで手厚く支えていただいておりますことに深く感謝申し上げます。

教育委員会でも、例年あるべき会議が書面開催となりました。定例会においても、6月からの再開となりました。春先実施できなかった学校への教育委員会訪問ですが、やっと今月21日から始まりまして、小坪小学校、久木中学校、沼間小学校の3校訪問し、来月の中旬までには全校訪問を終わる予定でございます。その中で、現場の子どもたちの落ち着いた様子を拝見し、各教育委員からも安堵の声を聞いたところでございます。そのことを踏まえながら、先ほど定例会を行いまして、教育課題について検討したところでございます。本日は冒頭で教育に関しまして、市長よりいろいろなお話いただきましたが、幅広い意見交換ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○事務局（佐藤次長）

ありがとうございました。議事に入ります前に、本日お配りしております資料を確認させていただきます。まず、一番上から、会議の次第ですね。それから2番目に構成員名簿。3番目に総合計画進行管理表（2019年度版）の抜粋。次に、令和3年度予算編成方針。最後に、逗子市教育大綱。以上でございます。配付漏れ等は大丈夫でしょうか。

それでは、これから議題に入りたいと思います。ここからの議事進行を桐ヶ谷市長にお願

いたします。

4. 議題（１）令和３年度予算編成

○桐ヶ谷市長

それでは、ここからは私のほうが議事進行ということで進めさせていただきます。皆様には積極的な御発言、また円滑な会議進行に御協力いただければと思います。

それでは、次第に基づきまして進めてまいります。それでは、議題第１の「令和３年度予算編成」を議題としたいと思います。

事務局のほうから説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長

それでは、令和３年度予算編成について御説明をいたします。

まず初めに、総合計画の進行管理について御報告をいたします。逗子市教育大綱では、この大綱の実現を総合計画との連動のもとに実現を図っていくということになってございますので、2019年度（令和元年度）の進行管理につきまして御説明をさせていただくものです。こちらの逗子市総合計画進行管理表、こちらのほうの49ページをお開きください。こちらは、共に学び、共に育つ、共育のまち推進プラン基幹計画の進行管理表になっております。こちらについて、市の評価といたしましては、Bということで、取組に係る総括コメントを記載しております。どの事業も予算の減額やコロナウイルス感染拡大などの社会的変化があった中で、工夫を凝らし、理念に沿って、おおむね順調に進捗していること。内容の見直しや工夫、他所管や市民、企業との連携により、さらに取組を進めることができた一方で、施設整備等において計画どおりに進めることができなかったことなどにより、２番目の評価となったという旨の記載がされてございます。

また、この基幹計画のもとに位置づけられております個別計画の評価結果につきましては、生涯学習活動推進プラン、文化振興基本計画、スポーツ振興計画、学校教育総合プラン、こちらがB、社会教育推進プランはAとなっております。おおむね順調に進捗しているという評価であるかと思います。

これに対しまして、審議会・懇話会の御意見について、評価区分といたしましてはBというふうになってございます。総括意見としましては、前期実施計画期間の後半４年が始まりまして、前半４年の目標と変更があった個別計画がある中で、進捗状況、事業評価に対して評価を見直すなど、適正に判断がされているということ。学校教育総合プランについては、

個別事業全般について、実施結果を示す添付資料をつけるなど、分かりやすい報告書にする必要があるとの意見をいただいております。

また、各個別計画の評価状況につきましては、生涯学習活動推進プランは、各講座の企画、運営について高い評価があったほか、教育ネットワーク構築事業について、共育ネットワーク構築事業について、開催講座の実施報告書の資料が添付されていることについて高評価がございました。

逗子市文化振興基本計画については、逗子アートフェスティバル・アウトリーチなどが市民参加の場になっている点についての評価とともに、運営サイドの普及啓発、企画を記載したい等の評価のほか、プラザホールの維持管理事業に関しては、保守点検の結果報告等を記載すべきとの評価をいただいております。

学校教育総合プランについては、成果を判別できる指標の文章化の必要について、昨年と同様の指摘があり、早急に改善を図るべきとの評価となっております。

社会教育推進プランについては、まんだら堂公開についての案内等の改善、市指定重要文化財保存管理奨励交付金活用状況の把握、家庭教育講座の応募率を増やす工夫などが必要との評価をいただいております。

1枚おめくりいただきまして、計画の推進・改善に向けての意見・提案といたしましては、母親講座など高評価なものの再企画や開催日の配慮、まんだら堂公開等、史跡案内での専門知識の啓発などが挙げられ、講座等のアンケートに関しましては結果の共有、様式の簡素化等の御意見がありました。また、基幹計画の今後の展開や策定に向けて考慮、検討を要する事項といたしましては、社会経験のある高齢者世代の有効活用、ITの活用、広域的な企画の検討、文化遺産の整備保全・償却について、中長期計画の市民共有等が挙げられました。

次に、こうした状況を踏まえまして、令和3年度予算編成について御説明いたします。予算編成方針を御覧ください。1ページ目のところです。予算編成方針につきましては、10月14日付で市長から教育委員会へ通知がされております。こちらの記載といたしましては、コロナ禍における本年4月から6月期のGDPの成長率の速報値が年率換算でマイナス28.1%となっていて、リーマンショック時を上回るマイナス成長となった中で、市の状況といたしましては令和元年度の決算は財政対策プログラムの結果、財政調整基金に目標額を積み立てるに至った一方で、コロナ禍の影響が長期化する懸念や、頻発する自然災害への対応が増加する中、少子高齢化や公共施設の老朽化対策などを進めていく必要があり、財政運営方針に沿って安定的な財政運営を行っていくことが求められているとの記載となっております。

また、具体的な予算編成方針といたしましては、こちらの８ページ目以降に記載がござい
ますが、少子高齢化の進展による市税収入の減少傾向が見込まれる中で、高齢化等による社
会保障費の増加、子育て支援や公共施設の老朽化対策、自然災害への対応など、様々な行政
需要に適切に対応していく必要があり、歳入に見合う規模の中で行政サービスを取捨選択し、
質の高い効率的・効果的な事務事業を実施することが求められる一方で、歳出抑制だけでは
なく、企業誘致や起業促進、民間活力の導入促進による新たな事業展開に積極的に取り組む
ことで、市税収入の確保に加え、まちの元気、魅力を増していくということが記載されてご
ざいます。

以上を踏まえまして、令和３年度予算編成に当たっての御議論につきまして、よろしくお
願いいたしたいと思います。以上です。

○桐ヶ谷市長

今、事務局より進行管理についての説明と令和３年度の予算編成方針についての説明をし
ていただきました。今この説明を受けたものに対して、皆さんから御質問や御意見いただき
たいと思いますが、いかがでしょうか。

○若林委員

今、保育園がやはり市長もおっしゃったように、今、来年度の入所の見学の方とか、ほと
んど毎日のように問い合わせとか予約を受け付けて、今、コロナもありますので、一度に３
人以内とか、密にならないように受けているのですが、やはり昨年よりも東京とかからとい
う方が増えているなというのが実感しているところです。１０時とかに約束すると、東京から
来て、またすぐ東京に帰るんですというお母さんもいらっしゃるということで、確かに
物件も本当に押さえているのか分かりませんが、増えるのかなというのをちょっと感
じているのですね。

ただ、本当にコロナのときも、自粛になりましたときも保育園は学校と違って休園しない
で、医療関係者の方もいますし、保育園を開けて受け入れておりました。本当に保育士もぎ
りぎりの人数で、募集してもなかなか来なかったというのもありますけれども、限られた人
数で、でも子どもたちが安心して過ごせるように、自分も感染しないように気をつけながら
通勤してということを５月、６月、必死にやってきてということもありました。これから先
のコロナの推移も分かりませんが、受け入れるに当たっても、保育士がいないと、例
えば０歳も１人の保育士がいれば３人入れられる、１歳児だったら６人、１人増えれば６人
見られるというような受入れ体制なので、保育士がいらないことには希望が増えても、とにか

く対応ができない。逗子のなないろ、ほかの園もそうですけれども、定員を超えて2割受け入れることもできると聞いていますので、人がいれば対応できるのかなというところは、ちょっと切に感じているところで。

○桐ヶ谷市長

人の手当てはどうですか。順調ですか。

○若林委員

幸い今、何かやっぱりコロナとかで、こういうことになると福祉を希望される方が多いのか、養成校を出る方でも問い合わせがありまして、1人確保できまして、そういった状況ではあるのですけれども。また、派遣の保育士さん、本当にプロでやっていただいているのですけれども、やはりちょっとお金がかかるのもありますので、この機会に、もし直接雇用ができれば、派遣さんをね、押さえてというような、運営の話ですけれども、そういったこともしながら、受入れができればいいのかなと思っています。近隣の市町村もなかなか、国からのそういう補助以外のところにも手厚くやっているというところも聞いていますのでね、保育士さんは動きが、モチベーション等含めて、やはり条件をいろいろ皆さん気にする方もいるかなというところもありますが、今いる保育士さんたちが安心して長く続けていただけるような、やはり工夫をしなければいけないのかなというのは、感じていて、そこがちょっとせめぎ合いで、保育園の現場では悩みでもあるところではございます。

○桐ヶ谷市長

私もそれに少し付け加えますと、そのぐらい小さなお子さんを抱えて逗子に移り住もうと言われる方が非常に多いということを考えますと、保育園での確保、これももちろん大事ですけれども、もう一方では教室が35人を超えた場合に割る、もっと増やす。そのための空きスペースはあるのかとか、もしくは学童のほうは受入れ体制はどうなのかとか、そういった様々なところに波及していきますので、やはりこの今押し寄せてきているこの波をですね、決して軽視せず、しっかりと受け止めて対策しないと、この新年度、大変な事態になるのではないかと心配しているところです。ぜひ状況等はですね、日々のそういう状況を含めて、情報が一本化になるように、そこはお願いしたいと思います。

やはり、もうまさに現場の声がそういう状況だと。ありがたいことなんですけど、対策が後手に回ると、それがもうかえって不満しか、市民の新しく越してくる方等には不満しか感じられなくなる。大変心配するところです。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

○村上委員

今のお話に関連してなのですけれども、先ほど現場の声というふうにおっしゃって、私も学童の現場におりますけれども、やはり普通に、お母さんたちが働いている率が、今在住の方たちでも増えていて、1年生がお母さん、入学の新1年生が上がると、高学年が押し出されてしまうという現状が、やっぱり学校…教室数というか、クラス数の少ない学校でも現実起こっているということと、それでまた新たに受入れというふうになったときに、やはり先ほど学童についても市長がおっしゃっていただいたように、大きな問題ではないかなというふうには日々感じております。

また、今、予算編成の方針でも、頻発する自然災害ということで、何度も文字が出てくるのですけれども。崖崩れであったりとかいうことが多発している。また、異臭騒ぎなんかでも、三浦活断層の話が出たりとか、本当に近々に大きな地震がくるのではないかという不安の中、学校の児童に関してですと、通学路の安全、あと移住されてくる方にとっては生活の安全ということで、多分市長、総合計画審議会でもちょっとお話しいたきましたけれども、そこら辺のお話も少しいただけたらと思っています。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。この2月にまず、池子の崖崩れが起きまして、尊い命が失われました。また4月には小坪のところでまた1名亡くなられた。立て続けに死亡事故も発生し、かつ昨年の台風以来、海岸のロードオアシスの崖崩れが、そもそもあそこがスタートだったのですけれども、そこを合わせても二十数か所の崖崩れが起きています。今、行政としてもですね、まずは市所有の土地に対しての点検はしっかりと対策を考える、練っていく。民間のところに対しても注意喚起はしっかりと行っていくという考えでおります。

民間のほうにつきましては、これまで崖地対策した場合に、市としての補助は80万円が上限だったのですけれども、いろいろな工事費等を見ていきますと、80万円ではとても対策しようというモチベーションにもつながりませんので、今、200万円を上限として2分の1もしくは200万円ということで、補助金の制度を作り替えました。これはこれまでの様々な金額等を見ていくと、ほぼ半分ぐらいは支援に、補助になるというふうを考えておりまして、そういう制度が改めて出た、できたということをどう周知するかということで、所管のほうでは危険と思われるところの所有者のほうに、そこはお伝えをしているというところであり、ます。何よりも本当に危険と考えれば全部が危険ですので、さあどうすればいいといっても、その危険度合いをおうちの中でしっかりとまずは認識をいただいて、それぞれその危険を

どう回避できるのかということを経常の中でまず取り入れていただく。それで、行政としては危険と思われるものに対しては積極的に働きかけをしていくと。この対策しか今、当面ないと。どこが危険というのが分かるぐらい危険ならば、最初に手をつければいいのですけれども、まあまあ凝灰岩そのものがもうこの三浦半島は本当に風化してきた、そういう時期にきているのかもしれない。ですから、危険と言えば全部が危険。かといって恐れてもいけないので、そこは市民の皆さんの情報を共有しながら進めていきたいと考えております。

また、みどり基金を一部管理伐採に使用してもらえるとというふうに条例変更しましたので、これによって台風災害等の倒木によって停電等災害につながらないように、そこは今、所管のほうで動いているところでありますので。幸い今年台風が今のところ上陸してない。もしくは、このままいけば上陸のない年になると思いますけれども、来年以降の準備も含めて、それは対策をしているところです。

○村上委員

ありがとうございます。住宅地もちろんなのですから、先ほど30代、40代の移住の方ということで、自然を求めて逗子・葉山のほうに移住されてくる方がほとんど、自然の中で子育てしたいということで、山を歩いていますと、かなり山の中でも崖崩れや倒木というのがかなり大きくありまして、大分昨年の台風から整備はされているということは実感しているのですけれども。その、緑政課になるかもしれないのですけれども、そちらのほうの部分も同じように、やはり移住者を考える中で、ひとつ大切なことではないかなというふうに思いました。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。僕も5月の連休前に二子山から歩いてみましたけれども、もうその去年の台風の爪痕というのは、非常に大きかったですね。歩けるようには整備はできていましたけれども、もうこれだけ風の力がすごいのかと思うようなありさまでした。この間も、蘆花記念公園のほうから古墳まで歩きましたけれども、やはりところどころ、立木のまま首折れしているように、ばさっと倒れているところも随所がありました。危険なところはなるべく速やかに手を入れて、歩行には支障ないようにするというのをやりながら、倒れた木そのものを、民地ですので、民間の所有ですので、そこを行政がどんどん整備していくというのは、これはもうきりがありませんから、できるだけ民間の所有の方々にも管理して手入れをしていただくということになろうかと思います。ありがとうございます。本当にその整備は、自然が売りですからね。そこは安全に、これからも配慮をしていきたいと思

ます。

○村上委員

私も野外で保育をしているときに、若い方、御夫婦がいっぱい見学に来られていて、声をかけられることが多くて、やっぱり自然を求めて、自然の中での子育てを求めて来られているのかなということは、本当に実感しているので、ぜひそこをいろいろな場面でアピールできるようなことになると、すばらしいなというふうに思っています。

○桐ヶ谷市長

それはやはり売りですからね。それを目指してみんな来られるのだから、これがまちの中の大都会に行きたいといって来るなら、逗子に来るわけがないので、そこはしっかりと担保していきたいと思います。

御意見ございませんか。

○星山委員

最近ですね、さっきのプロジェクトのことに関連して、何か逗子は人気があるんだってというような話をいろいろ聞くわけなのですよ。やはり私などはいろいろな地域やいろいろな学校を回っていますので、この自然があまりないところで子育てしていらっしゃる方の苦しさというのを、やっぱり皆さん気づき始めていて、そういう意味でとても恵まれた地域なのだと思います。それが逗子のよいところを生かすチャンスということにも捉えられて、とてもすてきなことだなと感じています。

最初のプロジェクトに関して、御心配もいくつかあるということで、今、若林委員がおっしゃっていましたが、前々から問題になっているのは保育士の確保ということですね。私も養成校におりますので、保育士さんは取り合いですよ。だから、4年生でも、もう早々に決まるわけですね。それから、条件のいいところをみんなちゃんとリサーチしていますし、こちら側からしますと、学生をいいところに送りたいわけですね。ですから、当然先輩がいるとか、いろいろな評判を聞いて、優秀な学生さんはもちろんいい条件のところへ送りたいというのを、教員を養成しているほうの親心ということで、自然の成り行きかなと思うわけです。

そういうふうになると、やはり女性が安心して子育てするというときに、その子育て環境ってとても重要で、量ではなくて、国はやはりそっちに流れているように思いますが、逗子はやはり質ということに関しても豊かであるということ言えたらいいのではないかなと感じているので、どうしたら優秀な人材が継続的に確保できて、ここで安心して子育て

てをしてもらえるのかという、マンパワーの持続可能な育成と確保ですね。これがやっぱりすごくプロジェクトの中では重要ではないかなと。本当は保育士だけではないのではないかなと思いますが、今、保育の問題は非常に、一番重要な問題だと思います。と思うので、量にとらわれることなく、やっぱり質ですね。働きやすさというのは、子育てする人がこの市を選ぶということと、非常に近い位置にあるのではないかなと思いますので、もしかすると自分が保育士しながらこの市で子育てしたいという方が移住してくるかもしれませんし、あるいは自分が学びながら、また再び働くチャンスを得て子育てしたいという方もいらっしゃるかなというふうに、ちょっと広く考えていかないと、今、全国的に不足しているので、そのところは長期的な展望も必要かなというふうに思いました。これはちょっと保育に関することです。

SDGs のことに関して、今、私が申し上げたのですが、これ実は学校教育も同じではないかなと思ってまして、先日いろいろな学校を見せていただきましたけれども、とても一生懸命やっていたらっしゃいましたね。それから、コロナのことで、お子さんも、先生方も苦しいと思いますけど、精いっぱいやっていたらっしゃるけれども、でもやっぱり人は足りないのではないかな。子どもたちも、とてもいい子たちですけど、でも何か子どもらしさの保障というのが今すごく言われていて、あれしては駄目、これしては駄目と、もちろんコロナのことがあってのことですけれども、でもどうやったら子どもが子どもらしく、健全な発達をするかということですね。ここにもやっぱり多くの地域の方の力が必要ではないかなと私は前から考えています。高齢者の方とか、それから市民と協働するとかですね。

やっぱり逗子って、私もちょっと違う市の市民なので、逆に外から見ていて、素晴らしいなと思うところは、市民力が高い。市民の方たちの教養と文化度と、あと地域に貢献したいという力が非常に強い市だなというところをいつも感動しているわけですね。やっぱりあれだけみんな困っている現場が一方であって、一方で、もしかしたら力を貸せる方がいらっしゃるということを考えると、それ、どうやってコーディネートして、子育てしやすいとか住みやすい市にしていくかということ。何か総合的に何か人材がどういうふうに育ち、どうやって曲がって、どうやって活躍していくかということですね。何か私はそこがすごく魅力ある移住先というか、選ばれるというときに大事な視点ではないかなと感じているので、もしそんなことのお手伝いできればいいなというふうに思っていますし、もうちょっと絞らせていただいて、女性ということを考えると、女性の子育てしやすく働きやすい市というのは、非常に魅力的なのですね。だから、働きやすく子育てもしやすいというところを、御主人

と選ばれるときにね、魅力だなと感じられると思います。

ということは、例えば専業主婦であってもですね、ここで私はこんなことを学んで…これ、社会教育とか、それから生涯学習とかとも関係あると思うのですけれども、あるいは学校にどうやって貢献できるかというときに、何かわくわくするとか、ここに移り住んだら私も活躍できるかもしれない。自分の子どもだけじゃなくて、何か自分も新しい生き方を見つけられるのではないかということを、私はPRのポイントではないかなと思っていて、外から見ていると、やっぱり逗子ってすごく魅力的だと思うのですね。ただ、何かそのところの整備は、だけど逆に長期的な展望が必要なので、それからせっきく育成しても切れちゃうと、その世代で終わってしまうのです、教育って。私は何か、そこはちょっともったいないなと思うようなことも過去あったので、せっきく人がいらっしゃるのであれば、ぜひ生かしていただいて、仕事なりボランティアなり、いろいろなところで地域で活躍していただいて、市全体をみんなで盛り上げていこうというような。というようなモデルプランというか、それが見えるようにということがすごく必要ではないかなと思います。

外側から見ているから見えるかもしれないのですけれども、何かすごくほかの市と違って、いろいろなことをなさっているのに、PRなさらないのだなと思っていて。いらっしゃると当たり前にも思っていて、逆に見えないのかなと思うときもあるのですね。例えば、先ほどちょっと教育委員会でも申し上げたのですけれども、療育と教育が一本化しているというのも、非常にレアな強みですし、これだけ子育てにやっぱり関心が高いということも非常に強いですし、ここだけ全部始発で、それでここで子育てできたら、そのまま通いもできるし、それからコミュニティもね、非常に豊かに生きているところなので、ちょっと何ていうのですかね、何か私から見ると、もっとPRなさればいいのになということなんかもあるので、ちょっと1のことについて申し上げました。

もう1個だけいいですか。一方でですね、今現在抱えている問題があると思うのです。つまり、それは先日ですね、神奈川県とか、それからもう全国で発表になっていますけど、児童・生徒の問題行動とか不登校の調査というのが明らかになっていて、これも次回の教育委員会で逗子の状況についてお話があると思うのですけれども、一方でとてもいろいろなところで苦しんでいる、子育て苦しんでいる方もいらっしゃるわけですね。それに関しても、やっぱり私は専門が特別支援だということもあるのですけれども、そういう少数派の人や苦しんでいる人が幸せに子育てできるということは、全体の質が高いという、何よりのあかしなのですね。だから、やっぱりそういうことに関しても、これからどういうふうにしていくか

ということ。私は同じことかなと。例えば2番目に市長さんがお話しなさっていたGIGAスクール構想なんかも、学校へ行けてない子どもたちにこそ、生かしていただきたいなど。例えば、集団に入るのは難しいけど、いろいろな方法で、オンラインだったらつながっていかるとか、そういうことなんかも、もしかすると奇跡的な関係ができるかもしれない。

というようなことで、いろいろなことがあるのだけど、その中の一つに少数派の、もしこの子の親だったらとか、もしこの子が自分だったら、この市で選んでここで子育てして教育を受けて、やっぱりよかったなと思ってもらいたいなというか、そういう視点もとても大切ではないかなと日頃感じているところです。以上でした。

○桐ヶ谷市長

今、星山先生のほうからいくつか御質問、御意見出ました。保育士の件では、量と質のバランスだと。これは先生、逗子と東京、横浜とはどのくらい、金額の差が出るものですか。

○星山委員

私も実際に聞いてないので分からないのですが、就職する側にしたら、全部比べていると思うのですね。いろいろな手当から給料から。それがどのくらい平均で差があるかで、私は申し訳ない、存じ上げません。

○桐ヶ谷市長

逆に、若林委員のほうで御存じですかね。逗子に今、1名来ていただいたと。その人は比較した上で逗子を選んでくれたということだけでも。

○若林委員

近隣について、ちょっと法人とかいろいろなことで、法律とかも違うと思うのですが、民間で、職員に対し処遇改善加算があるのですが、例えば7年以上勤務したら4万円とか、1万円と2万円とか、いろいろあるのですが、でも、横須賀だと、もう7年目じゃなくても4万円がつくとか、いろいろそういった部分で手厚く、独自に住宅の借り上げであるとか、いろいろな形で、逗子よりはあるかなという。実際に他園ですけれども、4人ぐらいちょっと横浜に行ってしまったとか、異動しちゃった、退職して行ってしまったという。その条件で行く方は、やっぱりいますし。

○桐ヶ谷市長

4万円違ったら、違うよね。

○若林委員

月々ですからね。

○桐ケ谷市長

いやいや、逗子は財政対策プログラム進行中で、いや、それは出せないと言いながら頑張るのですけれども、東京はもっとすごくて、横浜はそれを防ぐために上げて、横須賀も上げてという、一人小島に残されてということになりますからね。でも、そうやって今、入ってきた人はどんな人だったんですか。

○若林委員

逗子に住んでいる学生さんだったのですけれども。桜山の方だったので、見学に来られて、働きたいですと言ってくださった。保育を見て、先生たちの笑顔と子どもたちを見て、働きたいですと言ってくださったので、お金じゃないのかなと、ちょっとそこは思いました。

○桐ケ谷市長

これは今のプロジェクトチームにもぜひ検討課題として、はい、すぐ加算できますという話にはいかないけど、ただ、それもいつまで増額せずにやっていけるのかという、その様々なですね、周りとのバランスもこれは大事になってきますから、それはそうですね。

またG I G Aスクール構想については、不登校やそういうところにもうまく活用できるのか。これはどう考えていますか。

○大河内教育長

明日、情報化推進会議というのがございまして、1月までに何をしなければいけないのかという形で、G I G Aスクールの取り組み・準備の中にも不登校対策というのも入っていますので、それに向けて、先ほど定例会でもありましたけれども、不登校の問題対策も含めて、何をそこに補っていけるかというところをこれから検討していくところでございます。所管の担当課長のほうも準備をしてございますので、随時形の見える方向で、市長のほうにもお見せできるのではないかと思いますけれども。

○桐ケ谷市長

今までそういうG I G Aスクールが実施されてないわけで、それが本当に動き出すと、よそのまちからも逗子はどうなんだと。いち早くするということは、もう本当に未開の地を切り開いていくわけですから、苦労もその分、何倍もあるのですね。行政的に見ると、よそがどうやっているか、それを取り入れて、うちはこうすると、先行事例を一つの参考にしながらいくというのは、行政的にはよくあるパターンなのですが。それでいくと、逗子は常にラッセルして、考えながら切り開いていくということになっていく。逆に、でもその苦労はですね、必ず身につきますから。楽は、後追いは、楽は楽ですけど、やはりそのプラスの面も

少ないのだと思いながら、その苦勞に立ち向かわないと、これはやっていけないので、学校の先生は本当に今から大変な状況。それで、恐らく保護者の方の中には、そういうのに対しては得意だという人たちがおられて、何でそんなことをやっているんだよぐらいの意見も、今度はばしばし出てくるということも想定しなければいけない。でも、ここはぶれずにですね、プラスの利用の仕方を我々は目指すのだということから、先生も一丸となってそこは進んでいてもらいたいなと思います。

また、子どもらしさがちょっと足りないということをお感じになられたということですね。

○星山委員

別に逗子の学校がそうだということではなくて、毎日のようにいろいろなところに相談に行く立場なので、子どもたち、いろいろなことを今、禁じられていますので、ここから先、教育も人間関係を豊かにするとか、どうやって地域の方たちと、またコミュニティをつくっていくかというのを、きめこまやかな対応が必要になってくるかなと思うのですね。私がお願いしたいのは、暗にお願いしていたのですけれども、逗子はたくさんの方が学んでくださっているので、活躍の場を開いていただきたいなと。それは簡単に言うと、ボランティアで構いませんし、いろいろなスキルを持ったいろいろな方たち、さっきのICTもそうだと思うのですけれども、何か一方で本当にいっぱいいっぱいなところがあって、もう少し余力があって、私、力になれるよという方をどうやってコーディネートしていくかですね。何かその辺りもやっぱり、1も2も絡んでいる。1というのは、ごめんなさい。さっきの魅力ある市をつくるためのプロジェクトと、ICTというのは一つの人をつなげるコミュニケーションのツールでもあるので、その辺りがかみ合っていくと、私は一人ぼっちをつくりたくないなと思っているので、簡単に言うと子どもたちも親御さんも、せめてこの小さなというかね、市のよさで、何か一ついいモデルができたらいいいのではないかなという、そういうイメージです。

○大河内教育長

毎回星山委員からのお話をいただく中で、やっぱり我々、「役割」があって、「資格」もですね。それプラス「出番」がないといけないと思うのですね。また、先ほど言われたように、「出番」だけじゃなくて、それを「評価する地域」がなくてはいけません。その循環があってこそ、そういう人たちが増えてくると思うのですね。ですから、逗子はもしかするとこの環境の中で、これが当たり前とっていて、実は当たり前ではなくて、「よそから見るとすばらしいことだよ」というところを意識づけて出していかないと思っています。

それから子どもの部分ですけれども、こんなことを感じました。市長と5月に分散登校の小学校を見に行ったときも、今回の学校訪問でも感じたものですけれども、子どもの育ちそびれ、いわゆる絡んだり、じゃらけたりというところの中で、痛いとか嫌だとかと、そういう部分というのが自然と育っていくではないですか。そういう遊びの中からルールができて、そして人間関係が深まっていくのですけれども、その部分がこのコロナで欠落してしまっている感じがします。ですから、教育現場に行くと、子どもが手のかからないというのは、それはそれでいいと思いがちなだけけれども、そういうときこそ、きちっと子どもの中に入って行って、育ちそびれがないように、子どもたちの自然の触れ合いというのを追求していくという部分が必要だと思います。その点、この間、学校訪問で見に行ったときは、いい環境の中で子どもたちが育っているのも、そこをどういうふうに生かしていけるかという部分は、すごく今、思っているところです。

○桐ヶ谷市長

星山委員から言われたPR不足というのは、やっぱりみんな、はにかみやなのだと思います。

○星山委員

きっと中にいらっしゃると当たり前で、見えにくい部分があるかなと思いますけれどもね。

○桐ヶ谷市長

何か、ぐいぐいやるというのは、いや、それはちょっとと、分かってくれる人だけが分かってくればぐらいの、何かね、のほほんとしたところがね、逗子のよさなのかもしれませんね。本当に、でも外に対してのアピールというのは、ほんとやっぱり必要だと思うのですよね。やっていることはちゃんとこうして。そこはぜひ今後の課題として、積極的にPRできるように、またお願いいたします。

高橋委員は、何か御意見ございませんか。

○高橋委員

個別計画の中ですね、スポーツ推進計画に関してですが、今年はプロ野球選手が誕生したり、またウィンドサーフィンで世界で活躍している、逗子のこの環境、海があってという素晴らしい環境の中で、そういったスポーツに親しむと。それから逗子はスポーツ都市宣言というものもあります。その中で、小さいころから中学、高校に行っても、この中で子どもたちが成長していく中で、指導者の役割というのはやっぱり大きいのかなと思います。今、各競技の協会とか、体育協会ですか、スポーツ少年団等々ありますけれども、中学校の部活

とかそういったものの総合的にですね、子どものときから育っていって行く中で、指導者がうまくかかわっていく仕組みというのが必要なのかなと。競技団体、体育指導員さんとか、いろいろな方がいらっしゃいますけど、そこの連携とか、連携もそうですし、逗子ではこういう子どもを育てるのだという共通したイメージをそれぞれの指導者が持って、子どもの育ちに合わせて指導、関わっていくというような仕組みが必要なのではないかなというふうに思います。

実際に、小学校から中学校の部活に行って、どうしているのかな、機会があれば関わって、成長を見届けたいなというふうな思いを持っている指導者もいますし。その辺で、スポーツ推進計画の中で、指導者の育成ということについても、その仕組みをですね、たしか3年…2年後か、それくらいにスポーツ計画のほうの見直しというんですか、というのがまた時期が来ると思いますし、そういったものに合わせた…合わせる必要もあれですけど、仕組みづくりをぜひつくっていければなというふうに思っております。

○桐ヶ谷市長

学校も今、民間のそういう人たちを活用する制度に移り変わるような部分もありますよね。教育長がよく御存じだと思いますが、いかがですか。

○大河内教育長

今、学校には各スポーツ団体から学校の要請に合わせて指導員の立場で目標を掲げながら来ていただいておりますが、全ての種目という形ではないのですよね。学校で部活動の指導を頑張りたいと思っている専門的な教員もいますので、文科省の動きで、働き方改革で一番今、学校の中でストレスを感じるのとは何かというアンケートをやると、ほとんど部活動なんですね。教員が、土・日の試合とか含めて。ですから、その改善するためにですね、地域のいわゆる総合型スポーツクラブと融合する中で、地域におろしていければなという動きが文科省であります。ただ、それは丸投げ状態になってしまいますので、学校の教員でも地域で活躍したい者については、地域のスポーツ団体等に登録をして、土・日に中学・高校の教員が地域で教えるというような形も選択肢の一つとして今動いているようです。

ただ、国全体としてはモデル的な形でやっていかなければいけないので、今のいわゆる中学校の体育連盟や高等学校体育連盟もありますので、その動きと絡みながら、どういうふうに精査していけばいいかなという動きが今、国のほうでありますね。ですから、あと2年ぐらいで、今、そういうプロジェクトも動いていますので、新聞にも出ましたけれども、新たな動きについてはオリンピックが終わった後ぐらいに形が出るのかなと思っております。

○桐ヶ谷市長

先生たちの負担の多少まず軽減もあり、そして子どもたちの質といいますかね、指導を受ける質も上手に上げていく。その両方のいいところをうまく活用したところでは、やはり僕は、スポーツはすごく大事だと思いますので、スポーツを通して、この小・中・高の間に基本的な体力、体質もつくっていくという意味では大事だと考えますので、ひとつここはお願いをいたします。

教育大綱、そして予算編成について、もしほかにこういう御意見というのがありましたら、お伺いして、それが一通りということであれば、その他に、次に移動したいと思いますけれども、御意見いかがでしょうか。これ言い忘れたとか、言っておかなければというのがありましたら。

よろしいですか。

4. 議題（2）その他

○桐ヶ谷市長

そうしましたら、次に議題の2、その他に移らせていただきたいと思います。皆さんのほうから議題というのはございますでしょうか。

先ほど僕は冒頭の挨拶で申し上げました中学校給食の温かい御飯を提供するというのは、本当はその他でもんで正式に報告するものですが、しょっぱなにかなり長く説明しました。逆を言うと、その辺も含めて、もし質問がございましたら、このその他のところで御質問いただければ、お答えもしたいと思います。含めて何かその他で、いかがでしょう。

今、話は飛びますけれども、星山先生のほうにはまた、来月から6回でしたっけ、講座をやっていただく予定のようですが。ぜひ、本当に様々な子育て、お悩みの方がたくさんおると思いますし。

○星山委員

今度、子育て支援として、して下さることになったのですが、先ほどお話ししたように、講座を受けるだけではなくて、講座を受けた方が活躍していただきたいというのは最初から入っていて、支援体制の講座なのですね。やっぱり出口のところがなかなか設計がうまくいかないで、そこは御理解と御協力いただけるとすごくありがたい。結局、やりたい人たちがどんどん出てくるのですけれども、どこでどうやって生かされていくかという辺り、そこが今まだちょっと見えない部分があります。試行的にはいろいろ始まっておりますので、

地域で御活躍いただけたら一番いいかなというふうに思っております。

○桐ヶ谷市長

今回は初級ですよ。

○星山委員

そうですね、初級です。

○桐ヶ谷市長

6回でしたっけ。

○星山委員

7回ですね。ただ、本当に長い間いろいろな課の方たちが協力をして、してくださっているの、何期もいらっしゃるのですよね。その前、過去さかのぼって。そういう方たちも、多分それぞれの場所で御活躍だと思いますが、また見えるものが出てくれば、力を貸してくださる方はいらっしゃるのではないかなと期待しているところです。

○桐ヶ谷市長

これ、ちょっと御意見を。

○大河内教育長

今年度からですね、学校のほうに星山先生の育てていただいた方々がボランティアの形で入っております。詳しくは（療育教育総合センター）奥村主幹のほうが面接してボランティアをお願いしていますので。奥村主幹のほうで、星山先生の授業で育った方々の今の状況というのは、お分かりですか。

○奥村療育教育総合センター主幹

正式な名称としては、支援教育推進サポーターという名前で、現在小学校に2校、中学校1校、全員で4名の方が週に1回ずつボランティアの形で入っていただいています。愛称を虹色サポーター、略して「虹サポ」というふうに呼んでいますけれども、今年の7月から学校に入っていただいています。

中身としては、以前ありましたいわゆる「うるフレ」、うるおいフレンドさんのような仕事なのですけれども、星山先生の講座を受けられて、かなり専門的な知識を身につけられているところもありますので、もうちょっと突っ込んだ形で子どもたちからの相談であったり、あるいは支援教育全体を俯瞰しながら、支援教室の運営のお手伝いも含めて、お願いをするということでスタートしております。学校のほうからも、もう既に来年度もぜひ入ってほしいという要望をいただいていますし、3校以外からもうちにも入ってほしいという声を

いただいていますので、今後も試行していきたいと思います。ただ、現在、あくまでボランティアの形ですから、支援教育のためのボランティアさんへの謝礼というか、交通費のような形で、図書券をお渡ししています。

スタートに当たっては、私のほうからも学校ってこういうところですよというような、研修というにはちょっとおこがましいですけども、お話もさせていただいた中で、現在も月に1回、会合が開かれていますので、その中に参加をさせていただきながら、状況を見させていただいているというところです。

最大の課題は、ボランティアの方々が今、まだ子育ての最中というところもあって、来年度、なかなか続けるのが厳しいかもしれないという状況も出てきております。そういう意味では、そういった人材を安定的に確保していくということは、もうちょっと先の話になるかもしれないというのが正直なところです。同時に、あとは学校のニーズ、それとその方たちのやっぱり身分といいますか、そういったものを保障していくような枠組み、システムづくりというのは、今後必要になってくるかなというふうに考えております。

○大河内教育長

ありがとうございました。

○桐ヶ谷市長

この逗子の規模だからこそ、今、星山先生が研修を開いていただいて、それを卒業した人が聞きっぱなしで終わるというのではなくて、我が町でまたそれに携わっていくという、この循環はですね、大きなところではなかなか難しいのではないかと、勝手に想像します。となると、やっぱりこれが逗子モデルであってみたいと思うので、今、奥村先生の進めていただいているものの課題はですね、どんどん抽出して、やっぱりこれ、永続的な仕組みにもっていけるような、そういう方向性で僕はやっていくべきだと思います。ぜひ副市長にも予算のほうに関しては理解と後押しもらいながらですね、やっぱり制度として逗子のまちというのはそういう、これが特徴と、ちゃんとこういうところまでもやりきれているというところ、こういったのも含めて、実現に向けてやっていきたいですね。あまりあせりすぎはよくないと思うし、供給といいますかね、指導していただく側、そしてそこから意識を持っていただいて、そういうお手伝いができる。そこでは学校側がどういう受け手でそれを受け入れてもらっていくのかというところ、そこが一連の流れの中で、ぜひ構築してください。

ぜひ星山先生のほう、また将来のそういうのも含めてお教えいただければ。

○星山委員

本当に逗子の子どもと御家族が幸せになればいいなというだけなのですけれども。モデルが見えにくいので、何年かしないと循環してこないで、なかなかこんな機会がないと、回転する、入り口から出口までのシステムは分かりにくいと思うのですけれども、いろいろな他の方が御協力いただけると、もしかするとですけど、いろいろな子どもの問題に対しても、寄り添いができる地域社会につながっていくという可能性はあるかなと思います。期待しております。

○桐ヶ谷市長

これもひとつ逗子の特徴としてやれるように、実現に向けてやっていきたいと考えます。

ほかに御意見ございませんか。

○高橋委員

すみません。意見というか、ちょっと今、こちらの資料を見させていただいたのですけれども、案内型事業で、まんだら堂公開と書いてありますけど、私、ちょっと最近SNSでまんだら堂のことをちょっと見かけまして、今、公開で、人のほうは、どういった状況になるのか、ちょっともし差し支えなければ教えていただきたい。

○佐藤社会教育課主幹

私のほうから簡単に御説明いたします。まんだら堂の限定公開につきましては、令和2年度、年間で48日間の公開ということで計画をしておりましたが、年度の初めのうちの初夏については、このコロナの状況を踏まえて開催を中止しております。今、委員がおっしゃいましたように、この10月24日から12月14日までの間の25日間、土・日・月・祝日のみの公開となっておりますが、つい先日からまた公開を始めておりまして、最近またいろいろなところへお出かけの、積極的に動こうという動きも全体にある中で、まんだら堂のほうにも比較的多くの方が来て楽しんでいっていらっしゃるということを聞いております。

○高橋委員

ありがとうございます。ああいった史跡、逗子のセールスポイントの一部だと思いますし、興味を持たれる方はいっぱいいるのではないかなというふうに思います。ありがとうございます。

○大河内教育長

佐藤主幹は、「あさイチ」のNHKの番組で、まんだら堂紹介に出ていますので。逗子の何とか、名前、西洋の何でしたっけ、別名。

○佐藤社会教育課主幹

あれはプロデューサーに誘導されたのですが、日本のカップドキアであるというような。ちょっと不適切かなとは思いますが、そのようなことで、少しプロモーションも図っております。

○大河内教育長

あの後すぐ田舎の友人から電話がかかってきて、「逗子にこんなすばらしいところがあったの」と言って、コロナが終わったら行きたいななんていう話をしていました。

○高橋委員

ありがとうございました。

○桐ケ谷市長

ほかに何でも構いません。御意見、せっかくの機会ですから、よろしくお願いいたします。

○村上委員

先ほど、若い御夫婦に会うというお話をして、最近また移住してきた方とお話しする機会があって、このことは教育のソフトの部分はずごくすばらしくて、それで魅力を感じて、移ろうと思ったときの学校の通学路のことについて、すごく不安を持たれているということをお話ししていたことを、なかなかハード面なので、財政のこともありますし、すぐにどうこうというのはなかなか難しいことなので、なのですけれども、やっぱり選ばれるときに、どうしても葉山と比較される方が多くて、そのときの安全に通学できるだとか、ベビーカーが押して歩きやすいまちなのかとか、そういうことというのは、割と母親の目線で見ると大事なことだったりするので、今、教育の会議でもありますけれども、子どもたちが移ってきたときの住みやすさとか、安全性とかを考えたときには、やはりそういうことも必要なのかなというふうに考えております。

自分もあまり、自分が住んでいて、そういうことを当たり前に住んでいるので、なかなか分からなかったのですけれども、あ、そういう見方で見られてしまうのだということで、駅が近いよとか、逗子のアピールポイントを言いましたけれども、やっぱり住むとなるとそういうことも大事なのかなと感じました。

○桐ケ谷市長

どこがお答えしていいか困る問題ではないのですけれども、本当に歩道も通ってないですからね。あるところへ行くと、ぶつと切れて、もうあと何もないところへ行って、また途中へ行くと、ぷっと歩道ができるという、狭隘道路の中での限界というのは、そこに出てくるのですけれども。例えば桜山8丁目の田越橋から富士見橋の辺りのカーブのところなんて

というのは、バスは通るわ、車が頻繁に通る、そしてピザ屋さんのところからはもう、ちょっと危険な空気がありますよね。お答えできる方、いらっしゃいますか。

○柏村副市長

今、御指摘を受けましたバリアフリーという観点からの道路の改修ということでございますけれども、桐ケ谷市長から話のありました田越橋から富士見橋の道路につきましては、県道ということでございまして、従前から市議会議員と県議会議員が県土木の事務所のほうに行かれて、要請をしているということでございます。県と市とそれぞれ、申し訳ございませんけれども、守備範囲が分かれておりまして、市ができるものについては予算の許す限り、改修をしているというような状況であります。山の根の金沢逗子線もそうですけれども、県道というところがやはり多く、市民の皆様から指摘されているところでございます。市長も直接県土木に出向きまして、いろいろ要請しているところでございますけれども、今後も行政としてできることはやってしていきたいというふうに思います。

○桐ケ谷市長

本当に民間、民地が接して、そこをじゃあ下がってくれの、抛出してくれの、なかなかね、言えない状況の中で、本当に歯がゆいのですけれども。

○村上委員

子育てしているお母さんたち、逗子の中をどうやって移動しているかということ、車も、歩いてもそうなのですけれども、自転車の利用がかなり大きいと。保育園の送り迎えなんか、ほとんど自転車ですね。自転車で、私もあちこち走っていますけれども、下水道のところが窪んでいるので、どうしてもそれを迂回して、こういうふうに行くということなので、自転車の安全という、自転車道路、なかなかだから道の問題があるので、難しいことではあるのですけれども、少し視点に入れていただいて、その中でこぼこであったりとか、そういうことを見ていただけると。なかなかちょっと難しいことなので、それは。

○桐ケ谷市長

今日は担当所管が来ておりませんが、本当に言われることはよく分かります。車を運転している側からすると、自転車がびゅっと車道に飛び出して、ええっと思ったりする。それは出たくてこっちへ来るのではなくて、いろいろなもので、よけなければいけないがために出てくる。それは子どもであれば、特にまた危険にもつながると思います。

○村上委員

子どもも、スポーツに行くときなど、小さい子も大人も自転車でというところは、よく見

かけるので。

○桐ケ谷市長

今言う範疇、県道、市道、いろいろありますけれども、可能な限り進めてまいります。

ほかに御意見ございませんか。

○若林委員

コロナ感染防止の対策的には今からずっと同じような形で、もちろんワクチンもできてないですし、市としても県に準ずるという形で、3密を避けて、マスク着用。この何か、乳幼児なのでマスクは強要していないのですけれども、そういった形が続きますよね。

○桐ケ谷市長

今、市の施設に関しましては、11月から基本はもう通常の状態に戻していくというふうに考えています。ただ、例えば高齢者施設の中でカラオケとか、そういったときには、まだ中止というものにはしていきますけれども、これからはもう、どうしてもウィズコロナですから、春先のように完全にどう止めるかということよりも、注意しながら感染を防ぎつつ、どう日常に近い暮らしが戻せるかというところだろうと思います。

○若林委員

集会の人数ですとか。

○桐ケ谷市長

それもやはり密にならない、ここまでいろいろやってきた中で、一般市民側の考え方の中でも、皆さんいろいろな考え方、大分整理もついてきましたので、そういう中から自主的な判断を含めて、密にならないような仕組みというところしか、もう。今現在、これで決めて、こうするということをですね、極力解除しながら、暮らしを日常に戻せるべく努めるというところだというふうに考えております。

いろいろ御意見を頂戴いたしました。総じて逗子をよくしたい、住みよくしたいと、こういう皆さんの熱き思いが十分我々も受け止めたところでありまして、ただ、言い訳ばかり、金がないということを金科玉条、言い訳にしているのも一向に変わりませんので、その中でもやれることはどう特徴を持って進めていくかというところ、先ほど話に出ました障がいもしくはそういう方々にも非常に療育のセンターとして併設している、大変特徴的な教育のあり方だというふうにも星山先生のほう、おっしゃっていただきましたけれども、そういったものを我々もしっかりと自覚した上で、さらに全ての教育に前向きに取り組んでいく。その中で逗子の特徴はしっかりと発揮していきたいと考えているところであります。

冒頭申しましたように、やはり移り住もう、もしくはこのまちを自分たちの住処、終の住処にするのだという思いの方々の中には、必ず教育という問題が大きなウエイトを占めるということ、それにプラス、働けるまちだ、暮らしやすいまちだとなってくるというのは、本当に素晴らしいことでありまして、何とかそういう選ばれるまちになるべく、今後もそういう方向でやっていきたいと考えているところです。ぜひ、教育は恐らく根幹になりますので、皆様には今後とも厳しい御意見と、温かい見守りといただきながら、お願いしたいと思っています。

それでは、これでその他の部分も締めますので、事務局、よろしく。

5. 閉 会

○佐藤教育部次長

どうもありがとうございました。本日の日程はこれをもちまして全て終了いたしました。こちらをもちまして、令和2年度第1回逗子市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。